柑子岳登山

柑子岳（こうしだけ）登山は山頂 254.5mの低山であるが、一の谷駐車場の奥からの登山となり、そこからはすぐ木の階段（以下、木段）となり、その木段がほぼ山頂まで続いている。山頂は柑子岳城址（草場城址）の本丸（上ノ城）と南展望所（下ノ城）の二つの曲輪群で構成されている。また本丸の北には北展望所（北の上ノ城）があり、切岸や堀切等がみられる。北展望所から村上登山口までの下りは木段の急勾配の下りとなっていて、村上登山口から山頂へ上るとすると、一の谷から山頂への登りに比べて激しい登山である。一部登山道のなめらかな下りがあるが、急勾配の登りとなっており、それを越えると急勾配の木段が砂防ダム前まで続く。この急勾配の途中にはいくつかの休憩所が設けられている。この登山は分岐がなく、木段の整備がなされている。ただ、一部木段が壊れている個所もあり注意を要するところもある。その壊れた木段と斜面との区別がつかないものもあり、数え間違いがあるかもしれないが、一の谷登山口から柑子岳山頂までの木段は約 510 段で、木段以外を含めた歩数は 2302 歩であった。登山の際には参考にしていただきたい。

柑子岳城は筑前大友五城（立花城、宝満山城、安楽山城、鷲ヶ岳城、柑子岳城）の一つである。柑子岳古城について、貝原益軒編[3]では 1558～1569 年の永禄年中大友宗麟[おおとも　そうりん：1530（享禄 3）～1587（天正 15）年：戦国時代の武将・キリシタン大名。毛利氏・龍造寺氏らとしばしば戦う。豊後・豊前・筑後・筑前・肥後・肥前の 6 か国の守護を兼ねる。1568（永禄 11）年毛利氏に内応した立花鑑載（たちばな　あきとし）：？～1568：大友家譜代の重臣であったが、大内氏滅亡により北九州が大友氏と毛利氏の抗争になると、混乱に乗じて謀反を起こし毛利方に寝返っている。鑑載は戸次鑑連（べっき　あきつら：1513（永正 10）～1585（天文 4）年：後の立花道雪）率いる討伐軍の前に敗死]より、志摩郡小金丸の親山（おやま）と柑子岳に城を築き、城代を置いている。親山の城には大友家家臣の日野三九郎を置き、柑子岳には宗麟の一族臼杵新介鎮賡（しげつぐ）を置いている。後に日野は志摩郡を去り、臼杵だけで志摩郡を守っている。1555（弘治元）年頃、高祖城主原田興種は羈（おもがい）旅の陣中のとき突然の死により、家族離散に及んでいる。その時、興種の嫡子隆種家を保っている。それとともに毛利元就[もうりもとなり：1497（明応 6）～1571（元亀 2）年：戦国武将、1523（大永 3）年家督を継ぎ、安芸国高田郡郡山城主となる。安芸・周防・長門・備中・備後・因幡・伯耆・出雲・隠岐・石見の 10 か国を支配する有力大名となる。居城の郡山城で病没。三夜の訓が有名]と組み大友氏と敵対している。大友宗麟は臼杵新介に命令して、隆種を滅ぼす企てをおこない、奥志摩の士である泊中務少輔と泊又太郎、油比の重留六郎以下とはかりごとをおこない、粕屋郡立花の高橋等に加勢を求め、原田氏を攻め滅ぼそうとしたが、逆に原田氏に攻められ、大友方は柑子岳城だけでなく志摩郡を放棄している。この間立花道雪[たちばな　どうせつ：1513（永正 10）～1585（天正 13）年：豊後に戸次親家の子として生を受ける。勲功により 1570（元亀元）年に立花の城主となり、剃髪して道雪と号している。1582（天正 10）年御笠郡

岩屋城主の高橋紹雲の嫡子左近将監統虎（むねとら：後の立花宗茂）を養子に迎えている]からの軍勢 1500 人の生の松原の合戦への加勢もあったが放棄している。合戦の顛末の詳細は[3]を参照されたい[注 1)]。

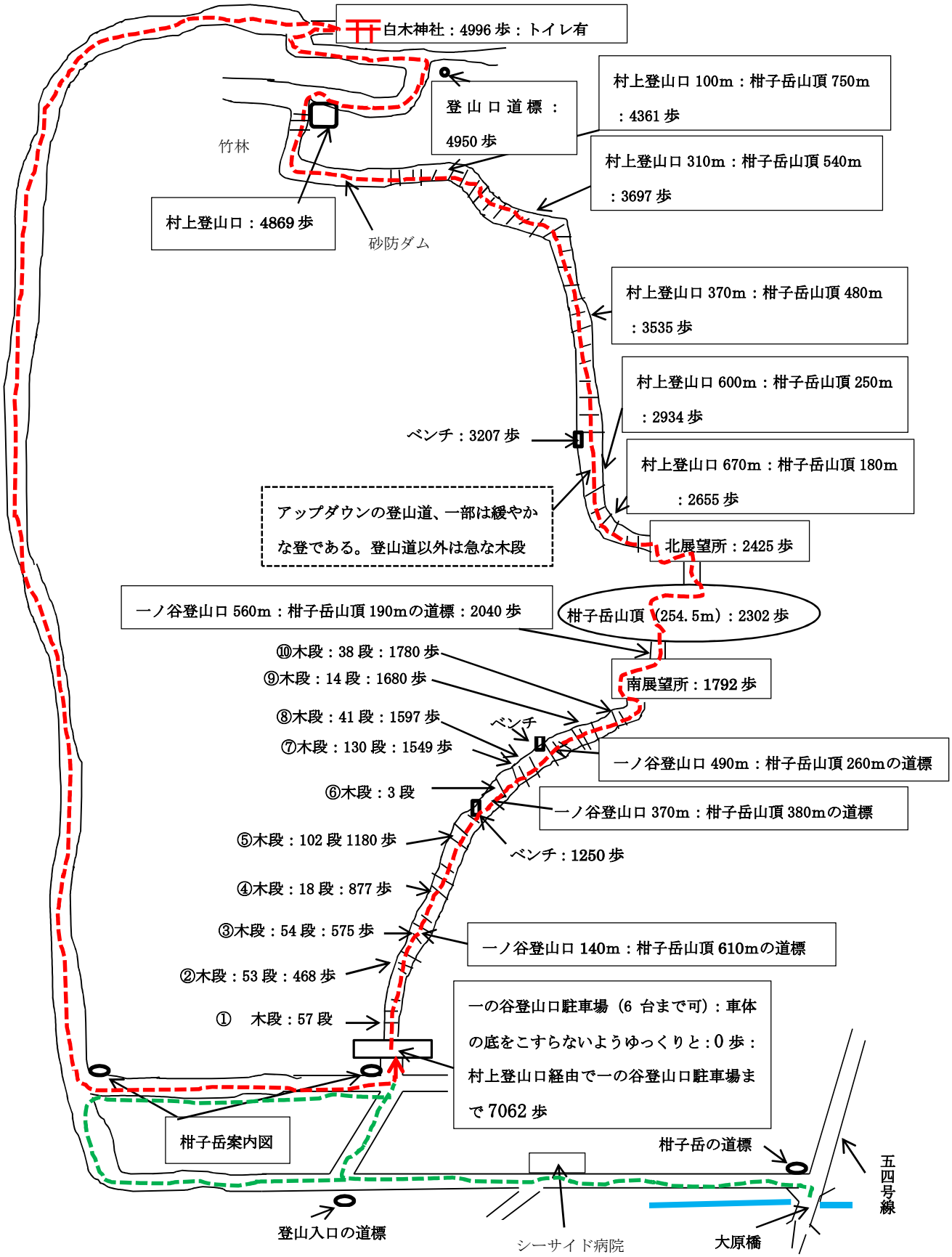
また、柑子岳古城についての記述は、青柳種信[1]にもある。本丸（平地で約 230 坪)、北に搦手（城の裏門）の方にところどころに堀切がある。本丸と二の丸（広さ本丸と同じ）の間に馬場跡の横 2 間縦 15 間の平地がある。この城の最初の経営は天文年間 1532(天文 3)～1554（天文 4）年に大内家臣の仁保宮内少輔が築城し、梅月八郎右衛門頼致とその子新三致定が城番を務めてきたが、1538（天文 7）年に致定がこの城を去り、早良郡安楽平城に移った。致定が去った後は大友氏の城となり臼杵安芸守が豊後より来て 1548（天文 17）年まで在番したとのことである。その後、臼杵安房守鑑續が続けて 1561（永禄 4）年まで在城している。その後、臼杵新介鎮賡と交代して 1571（元亀 2）年の冬に職を辞して豊後に帰っている。代わりに臼杵進士兵衛鎮氏が来たが、1572（元亀 3）年 1 月 28 日原田了榮に殺害される。その後暫く城督は途切れたが、元岡、小金丸、泊、古庄および是松などの近郷の郡士（領主）が在番している。1577（天正 5）年に木付兵部少輔鑑實を豊後から城督として着任したが、1579（天正 7）年に原田氏に攻められ生松原の合戦の敗北もあり、大友方は柑子岳城とともに志摩郡を放棄している[注 2)]。

注 1）参考文献[3]の 648～649 頁を参照。
注 2）参考文献[1]の 537～537 頁を参照。
*：大友宗麟および毛利元就は参考文献[8]のそれぞれ 239～240 頁および 1246 頁を参照。

参考文献

[1]青柳種信著・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記拾遺（下巻)』文献出版，1993 年 6 月.
[2]廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社，1999 年 7 月.
[3]貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版，2001 年 6 月.
[4]加藤一純・鷹取周成共著・川添昭二校訂『筑前國續風土記付録（下巻)』文献出版，1978 年 4 月.
[5]西日本文化協会編纂・福岡県史近代史料編『福岡県地理全誌（六)』福岡県，1995 年 3 月.
[6]奥村玉蘭・田坂大蔵等校訂『筑前名所図会』文献出版，1985 年 12 月.
[7] 歴史学研究会編『日本史年表　第四版』岩波書店，2001 年 12 月.
[8]三省堂編修所編『コンサイス　日本人名辞典　改訂新版』三省堂，1999 年 10 月.

柑子岳（福岡市西区草場）


白木神社：4996 歩：トイレ有
村上登山口 100m：柑子岳山頂 750m：4361 歩
登山口道標：4950 歩
竹林
村上登山口 310m：柑子岳山頂 540m：3697 歩
村上登山口：4869 歩
砂防ダム
村上登山口 370m：柑子岳山頂 480m：3535 歩
村上登山口 600m：柑子岳山頂 250m：2934 歩
ベンチ：3207 歩
村上登山口 670m：柑子岳山頂 180m：2655 歩
アップダウンの登山道、一部は緩やかな登である。登山道以外は急な木段
北展望所：2425 歩
一ノ谷登山口 560m：柑子岳山頂 190mの道標：2040 歩
柑子岳山頂（254.5m）：2302 歩
⑩木段：38 段：1780 歩
⑨木段：14 段：1680 歩
南展望所：1792 歩
⑧木段：41 段：1597 歩
ベンチ
⑦木段：130 段：1549 歩
一ノ谷登山口 490m：柑子岳山頂 260mの道標
⑥木段：3 段
一ノ谷登山口 370m：柑子岳山頂 380mの道標
⑤木段：102 段 1180 歩
ベンチ：1250 歩
④木段：18 段：877 歩
③木段：54 段：575 歩
一ノ谷登山口 140m：柑子岳山頂 610mの道標
②木段：53 段：468 歩
①　木段：57 段
一の谷登山口駐車場（6 台まで可）：車体の底をこすらないようゆっくりと：0 歩：村上登山口経由で一の谷登山口駐車場まで 7062 歩
柑子岳案内図
柑子岳の道標
五四号線
登山入口の道標
シーサイド病院
大原橋

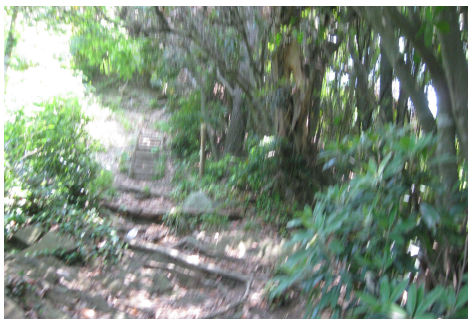
柑子岳一の谷駐車場前の案内図

一の谷駐車場

一の谷駐車場からの登り口

駐車場から 575 歩のところの道標

登山道と木段



登山道と木段

南展望所（二の丸：下の城）

南展望所からの長浜海岸

南展望所からの可也山遠望

南展望所と山頂との間の馬場跡付近

柑子岳山頂（254.5m）

柑子岳山頂にある三角点

山頂からの長浜海岸と能古島遠望

北展望所

北展望所から海釣公園と唐泊漁港を遠望

北展望所から下山（急木段）

下山の登山道

下山の道標

下山の登り尾根道

下山の登りの木段

下山の道標

下山の尾根道

急な下山の木段

急な下山の木段

急な下山の木段

下山の道標

急な下山の木段

急な木段終わって下りの道

竹林の道標

竹林の中の下山道

村上登山口案内板の前の竹林の木段

村上登山口の案内板

登山口案内の道標

白木神社

白木神社

一の谷駐車場に戻る際、草場集落にある防空壕